

議案説明資料

議案説明資料① . . . 1ページ

令和6年度食育推進事業 食育ギャラリー事業実績報告

議案説明資料② . . . 3ページ

各部会の事業実施状況

(1) 子ども食育部会 . . . 3ページ

(2) 食と健康部会 . . . 4ページ

(3) 地産地消部会 . . . 6ページ

(4) 食の循環部会 . . . 7ページ

令和6年度食育推進事業 食育ギャラリー事業実績報告

1. 目的：市民の食育に関する認知度、関心度を図るとともに、自らが食育を実践し、健全な食生活を実践できるように、第4次久留米市食育推進プランに基づき、久留米市食育推進会議の各専門部会並びに食育関連団体等と連携して、食育についての情報発信や啓発を行う。
2. 日時：令和6年11月9日（土）、10日（日） 10:00～16:00
※第50回ふるさとくるめ農業まつりと同時開催
3. 会場：久留米百年公園 多目的広場
4. 来場者数：50,000人 ※農業まつり実行委員会公表
(9日(土) 30,000人、10日(日) 20,000人)

5. 実績

○食育推進会議及び関連団体 出展一覧

出展団体	内容
子ども食育部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校給食マスターをめざそう」学校給食クイズ ・子どものおやつ、共食に関するパネル展示 ・朝ごはんについての展示
食と健康部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育謎解きクイズにチャレンジ！～おいしく食べて楽しい健康づくり～」食と健康クイズ ・バランスの良い食事レシピの配布 ・健康ポイントアプリ紹介
地産地消部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「地産地消って何？～クイズにチャレンジ！」 ・地産地消農産物ぬりえ ・多面的機能、久留米市農産物統計パネルの展示 ・地産地消農産物を使ったレシピ配付
食の循環部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル回収デモ機の体験 ・ペットボトル回収デモ機パネル展示 ・てまえどり・食育パネル展示 ・食ロスパズルの設置



(子ども食育部会)



(食と健康部会)



(地産地消部会)



(食の循環部会)



(スタンプラリー受付)

6. 効果：第4次食育推進プランの目標像「市民みんなが食への理解を深め、生涯にわたり健全な食生活を実践するまち」の達成に向けて、4つの基本施策、「①生きる力を育む食育、②健康づくりのための食育、③食と農への理解を促進する食育、④環境に配慮した食育」に根差した取組を各専門部会及び各協力団体の協力のもと、市民に対して情報発信し、食育について啓発することができた。

今年度も全ブースを回って集めるスタンプラリーを行ったことにより、多くの人を集客することができた。昨年人気があった動画や体験型のクイズだけでなく、展示パネルやクイズに取り組むことにより、自らが見たり、考えたりして、体験しながら「食の大切さ」を改めて認識するとともに、食育への理解と関心を高めることができた。

＜基本施策Ⅰ 生きる力を育む食育＞

No.	主な事業 (事業名)	取組内容	R6年度事業実績	R6年度 決算額 (千円)	R7年度事業計画	R7年度 予算額 (千円)	担当課
●個別施策1 学校、保育所等における子どもへの食育の推進							
①	食育プログラム研究推進事業における子どもへの食育の推進	久留米市栄養教諭等研究会で作成する「久留米市食育プログラム」年間計画に基づいて、担任と連携しながら生活科や社会科、特別活動等で食に関わる指導を実施し、児童生徒の食に関わる資質・能力の育成を図ります。	○学校における食に関する教科等の指導や給食指導をおこなった。特に令和6年度は、新たに小学校低学年で「はしの指導」を展開し、「食育教材(指導案、学習プリント、事後実践カード、その他必要資料)」を作成した。 ○栄養教諭等が配置されていない中学校における食に関する指導をおこなった。	387	○学校における食に関する教科等の指導や給食指導を充実する。 ○栄養教諭等が配置されていない中学校においては、動画を用いた食に関する指導を充実する。	384	学校教育課
		学校における食に関わる指導以外での食育推進活動(親子料理教室の実施、家庭への働きかけとしてのレシピカードや保護者向けの通信等の作成・配付及びレシピ動画作成・配信等)に対して支援します。	○前年度の要望に応じた給食レシピカード、ミニ動画を作成した。		○食への関心を高める「親子料理教室」や「お弁当の日」、「朝ごはんの日」などを開催。 ○給食レシピカード、ミニ動画の作成。		学校教育課
②	魅力ある学校給食を通じた食育の推進	学校給食が、「生きた教材」として活用されるよう、「久留米市食育プログラム年間計画」と関連した献立年間計画を作成し、楽しい給食を通して効果的な食育を実施します。	○献立年間計画を基に、教科等と関連付けた献立作成を実施した。給食時間のもとより、指導方法を工夫し、ICTを活用した。	-	○久留米市食育カリキュラムから作成した食育プログラムとリンクさせた献立年間計画を作成し、教科等と関連付けた指導が行える献立をもとに指導を行う。 令和6年度の料理コンクールで入賞した献立を取り入れるよう献立年間計画に位置づけ実施する。	-	学校保健課
		献立のねらい(栄養バランスや噛むこと等)に基づいた給食指導資料を作成し、給食時間の放送資料として学校へ配付します。	○献立のねらいに基づいた給食指導資料を作成し、給食時間における指導内容の充実を図った。また、朝ごはん献立を毎月取り入れ、朝ごはんの大切さについて啓発を行った。	-	○献立のねらいと「給食」という体験を通じた、給食時間における指導の内容充実を図る。 「朝ごはん献立」を給食に取り入れ、朝ごはんの大切さについて、給食時間の指導、啓発を継続する。	-	学校保健課
		子どもたちが望ましい食習慣を身に付けることができるように、「給食献立表」及び給食だより「ランチタイム」の発行や試食会の開催など、家庭への食育啓発を行います。	○望ましい食習慣、生活習慣を身につけることができることを目的とし、児童配布献立表や給食だより「ランチタイム」で食の情報を毎月発信し啓発を行った。また、市ホームページにアップすることにより、食の啓発を効果的に実施した。	-	○児童配布献立表や給食だより「ランチタイム」で食に関する情報を毎月1回発信する。また、保護者や地域の方に対し、給食試食会を開催する。	-	学校保健課
③	学校給食への久留米産農産物の導入促進	久留米産の米を使用した主食に加え、旬の久留米産野菜を多く使用した副食による「地場産給食の日」を毎月2回設定します。	○久留米産の米を使用した主食の日に合わせて毎月2回、地場産給食の日を実施し、地場産野菜を組み合わせることにより、子どもへの理解を図るとともに、利用促進に寄与した。	-	○毎月2回、「地場産給食の日」の実施を継続し、子どもたちへの久留米産農産物の理解促進を図る。	-	学校保健課
		久留米産農産物の積極的な活用を念頭に置いた献立年間計画を作成するとともに、新規献立の開発などの献立の工夫を行います。また、生産者と子どもたちとの収穫体験や交流給食等の活動を通して感謝の念を育みます。	○久留米産の米を使った米飯給食週4回を継続して実施した。また、久留米産農産物を使った献立の開発を行い、試作を経て学校給食へ新しい献立を考案した。令和6年度は、久留米産農産物5品を学校給食に取り入れた。	-	○地産地消の推進などを目的として、久留米産米による米飯給食を週4回実施する。また、関係機関と連携し使用できる野菜の時期や、新規食材の使用を含め、久留米産農産物を使用した献立の開発を行い、学校給食への導入促進を図る。	-	学校保健課
		学校給食調理員による久留米産農産物を使用した料理コンクールを行い、調理技術スキルと意欲を高め、学校給食における食事内容の充実と多様化を図ります。	○学校給食調理員による久留米産農産物を使用した学校給食料理コンクールを実施した。 日程: 令和6年8月7日(水) えーるピア久留米 1位となった学校の献立は、2月の学校給食で実施した(鶏のから揚げカレー味、りんごときゅうりの和え物、ツナ入りみそ汁)。	-	○学校給食調理員による久留米産農産物を使用した料理コンクールは会場の施設改修の都合により実施できないため、新規献立の試作等を行う調理研究会において、地場農産物を使用した新規献立の導入を図る。	-	学校保健課
④	保育所、幼稚園、認定子ども園等における子どもへの食育の推進	各園で様々な形態によって提供される給食が、子どもの発育、発達、健康状態、摂食機能など、子どもの特性に応じて適切に実施できるように、食事計画や献立作成時に必要な情報提供による支援や研修などを実施します。	○施設職員向けの給食・食育研修会を実施した。 ・公立及び私立保育所:3回(講師招聘・調理実習・献立検討) ○認可保育所等での3歳以上児への主食提供による、給食の充実を図った。	63,380	○施設職員向け給食・食育研修会を実施する。 ○認可保育所等で3歳以上児への主食提供による給食の充実を図る。	67,253	子ども保育課

No.	主な事業 (事業名)	取組内容	R6年度事業実績	R6年度 決算額 (千円)	R7年度事業計画	R7年度 予算額 (千円)	担当課
●個別施策2 家庭・地域への食育啓発の推進							
①	食育プログラム研究推進事業における家庭・地域に対する食育啓発の支援	学校、家庭、地域が自校の児童生徒の朝食を含む食生活の実態を把握し、課題を共有するとともに、その課題解決に向け、三者が協働して朝食摂取を促す取組を実施することに対して支援を行います。	○学校、家庭及び地域が連携した運動を展開し、子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上、朝食摂取率の向上を図った。 <活動> 食に関するアンケート 食育推進支援事業(9校実施) ・小森野小「地産地消について学ぶ」 ・山川小「『生』と『食』をつなぐ生教育」 ・高良内小「食の体験活動」 ・弓削小「伝えよう弓削じまん～山しお～」 ・日吉小「めざそう、手洗い名人」 ・西牟田小「育てた野菜をお家の人にふるまおう」 ・大城小「そだててはっけん！」 ・草野小「生活単元『夏野菜・冬野菜を育てて、パーティーを開こう』」 ・水分小「さつまいもを育てて料理をしよう」	387	○学校、家庭及び地域が連携した運動を展開し、子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上、朝食摂取率の向上を図る。 <活動予定> 食に関するアンケート、生活リズムカード、食に関する講演会、地域人材を活用した野菜の栽培や調理等の学習、親子料理教室、お弁当の日、おにぎりの日、朝ごはんの日の取組などを行う。	384	学校教育課
		朝食摂取を促す三者協働の効果的な取組が、他校への取組の参考事例となるように啓発を行います。	○朝食摂取を促す三者協働の取組や、各学校での食に関する取組等を、リーフレット、チラシ、動画等で発信を行った。 ○11月9、10日に開催された「ふるさとくめ農業まつり」で、調理器具・朝ごはんのクイズ、久留米産農産物に関する資料掲示、自然農法のパネルの提示、QRコードを載せた朝ごはんレシピカードの配布を行った。		○朝食摂取を促す三者協働の取組や、各学校での食に関する取組等を、リーフレット、チラシ、動画等で発信を行う。		学校教育課
②	母子保健事業における食育支援	妊娠届出の際に、妊婦の健康状態や食生活などを把握し、リスクに応じた適切な食生活指導等を行います。	○妊娠届出の際に、保健師等の専門職が、妊娠前のBMIや生活習慣病の家族歴等から健康に関するリスクや食生活の状況を把握し、適切な食生活指導等を行った。 (届出数:2,018人)	-	○妊娠届出の際に、保健師等の専門職が、妊娠前のBMIや生活習慣病の家族歴等から健康に関するリスクや食生活の状況を把握し、適切な食生活指導等を行う。	-	こども子育てサポートセンター
		離乳食教室や子育て相談会などを利用し、子どもだけでなく大人も含めた食生活改善を促し、家庭での「共食」を通じた食生活の支援に努めます。	○マタニティ教室や離乳食教室、子育て相談会、乳幼児健診、妊娠届出などの機会を利用し、「共食」を通じて家族を含めた食生活の見直しにつながるよう、配布資料や講話内容を充実させ、普及啓発を図った。 (マタニティ食事教室4回、離乳食教室32回、ゆったり子育て相談会48回、集団乳幼児健診(1歳6ヶ月児、3歳児)46回)	1,500	○マタニティ教室や離乳食教室、子育て相談会、乳幼児健診、妊娠届出などの機会を利用し、「共食」を通じて家族を含めた食生活の見直しにつながるよう、配布資料や講話内容を充実させ、普及啓発を図る。 【マタニティ食事教室4回、離乳食教室33回 ゆったり子育て相談会48回 集団乳幼児健診(1歳6ヶ月児、3歳児)42回】	2,298	こども子育てサポートセンター
③	地域子育て支援センター、子育て交流プラザぐるるん、児童センターにおける食育支援	地域子育て支援センターなどの子育て支援施設で実施する食育講座や離乳食相談会等を通じて家庭での正しい食習慣の推進を行います。	○食育事業の実施 計15回(220人) 地域子育て支援センターによる食育講座・2回(35人):幼児食の講話と調理のデモンストレーション 子育て交流プラザぐるるんによる離乳食相談会・11回(133人):離乳食の講話と個別相談 児童センターによる食育講座(乳幼児食の講話)・2回(52人) 会場もしくはオンライン参加(ZOOMによるライブ配信)で行った。	31	○子育て支援事業を通じて、共食など家庭での正しい食習慣の確立のため啓発を行う。 ・地域子育て支援センターによる食育講座(乳幼児食の講話及び調理実習) ・子育て交流プラザぐるるんによる離乳食相談会 ・児童センターによる食育講座(乳幼児食の講話) ・子育て支援団体及び校区すくすく子育て委員会等への出前講座	74	こども子育てサポートセンター
④	多様な暮らしに配慮した子どもへの食育支援	子どもが将来にわたって幸せな状態で成長するため、安全・安心に過ごすことができる居場所をつくることを目的に、食事の提供のみならず、基本的な生活習慣の習得、地域との交流、学習支援、調理実習を行うこども食堂の実施団体を支援し、子どもの食生活の向上と望ましい食習慣の形成を図ります。	○市内において子ども食堂を実施する団体に対し、運営または施設整備にかかる費用を助成した。 子ども食堂実施団体数:17団体 延べ実施回数:504回 延べ参加者数:11,828人	3,445	○市内において子ども食堂を実施する団体に対し、運営または施設整備にかかる費用を助成する。	5,980	子ども政策課
⑤	保育所、幼稚園、認定子ども園等における食育支援	給食献立表、給食だよりの発行、給食試食会や親子クッキングの実施、給食の展示など、保育所、幼稚園、認定子ども園において、家庭を含めた保護者への食育啓発の支援を行います。	○保護者向け食育取組状況は次のとおりだった。(保育所、認定子ども園、幼稚園への食育アンケート調査結果・複数回答) <取組をした項目・回答割合> ・給食展示95%、給食だよりの発行72%、栄養成分表示79% ○乳幼児の食に関する情報提供啓発物(子どもたちに食べさせたい料理レシピ:天然だしを味わう 保育所おすすめレシピ)を市ホームページで配信し、保育所や認定子ども園、幼稚園の保護者へ、同啓発物のチラシを配布した。	23	○保育所、幼稚園、認定子ども園に対する食育に関するアンケートの実施及び食育講座を行い食育の啓発を図る。 ○乳幼児の食に関する情報を、市ホームページ等で配信を行う。	242	子ども保育課

No.	主な事業 (事業名)	取組内容	R6年度事業実績	R6年度 決算額 (千円)	R7年度事業計画	R7年度 予算額 (千円)	担当課
-----	---------------	------	----------	---------------------	----------	---------------------	-----

《基本施策Ⅱ 健康づくりのための食育》

●個別施策1 生活習慣病予防・改善のための食育推進

①	健康づくりを支える環境整備	くめ健康づくり応援店事業により、市内の飲食店や食料品販売店等で健康情報提供や栄養成分表示等を行い、健康に配慮した食環境の整備を進めます。	○食生活改善普及運動月間(9月)の取組 応援店と協働し、食事のバランスアップを目的とした啓発を行った。 (啓発内容:主食・主菜・副菜を揃えよう、野菜をプラス一皿多く食べよう等) ・店舗掲示用に、啓発POP、ガイドブック、ポスター等を162店に提供。 ・8月31日「やさいの日」に、野菜を食べようキャンペーンを実施。(スーパー1店、啓発物配布200人、アンケート回収133人) ・スーパーのデジタルサイネージ・テレビを使用し、動画を放映した。(3店) ・飲食店の喫食スペースに小型モニターを設置し、動画を放映。(2店) ○市健康づくりアプリとの連携 応援店利用によりアプリポイントの付与を実施し、健康づくりアプリと連携した。(1か月、付与回数109回)	139	○応援店で「主食・主菜・副菜をそろえること」や「野菜摂取」についての情報提供を充実させ、健康に配慮した食環境の整備を進める。 ○「くめ健康のびのびポイント事業」との連携により、事業の周知拡大、利用促進を図る。	366	健康推進課
		給食施設に対して、栄養指導員により食を通じた健康づくりを促進するための支援・指導を行います。	○給食施設への個別巡回指導や研修会を実施。 ・巡回指導数:75施設 ・研修会:2回(①6月・参加者数55人、②2月・参加者数62人)	75	○巡回指導や研修会を通じて、給食施設に対して食を通じた健康づくりを促進するための支援・指導を行う。 特定給食施設等届出数:228施設(R7.4.1時点)	174	健康推進課
②	地域における生活習慣病予防のための食育推進	食生活改善推進員が地域において、講話や調理実習等を通じて生活習慣病予防についての普及・啓発を行います。	○地区組織活動 食生活改善推進員による講話・調理実習を各地域で実施。「おいしく食べて生活習慣病予防」を主なテーマとし、資料やレシピに、「主食・主菜・副菜をそろえる」「減塩」などの内容を盛り込み、自身の実践及び家庭、地域への普及啓発を図った。(実施回数:46回、参加者数延べ706人)	1,418	○食生活改善推進員が市民を対象に、生活習慣病予防のための講話・調理実習を各地域で行う。	1,781	健康推進課
③	健診事業・保健事業における食育推進	健康管理ブック等で、主食・主菜・副菜をそろえた食事等の情報提供を行います。	○特定健診受診者への情報提供 「健康管理ブック」を配布し、「主食・主菜・副菜をそろえること」や「野菜摂取」に関する情報提供を実施した。(健康管理ブック配布数23,000部)	-	○特定健診受診者に配布する「健康管理ブック」で、「主食・主菜・副菜をそろえること」や「野菜摂取」に関する情報提供を行う。	-	健康推進課
		特定保健指導等の生活習慣病発症・重症化予防のための保健指導や出前講座を実施します。	○各種保健指導・教室 特定健診の結果に応じた指導や教室(特定保健指導、早期介入保健指導、お腹まわりすっきり相談、重症化予防事業)を実施した。	-	○特定健診の結果に応じて、各種保健指導や教室を実施する。(特定保健指導、早期介入保健指導、お腹まわりすっきり相談、重症化予防事業)	-	健康推進課 地域保健課

●個別施策2 生涯を通じた切れ目のない食育推進

①	若い世代への食育推進	YouTube動画等、手軽に情報を入手できるツールを活用して、食に関する情報発信を行います。	○料理動画の配信 「主食・主菜・副菜を揃えること」や「野菜摂取」に関する動画を5シリーズ14本配信。(R6総再生回数:29,600回) 食育教室やイベント等においても、動画を活用して情報発信を行った。 ○啓発ポスターの配布:市内の高校・大学等18校 「食事バランス」、「減塩」に関する2種類のポスターを作成・配布した。	140	○YouTube動画の配信や高校・大学等へのポスター配布より、「主食・主菜・副菜をそろえること」や「野菜摂取」など、食に関する情報発信を行う。	302	健康推進課
		高校生・大学生等を対象に講話や実習による食育教室を実施します。	○食育教室の実施 バランスのよい食事の基本的な知識や実践方法に関する講話や調理実習を実施した。(実施校:4校、9回、延人数342人) ○食育啓発イベントの実施 食事バランス診断、運動ゲームなど体験しながら楽しく参加してもらえる内容で、学生を中心に幅広い世代に食と健康について啓発した。(実施校:1校、延人数36人)		○市内の高校・大学等に、市から講師を派遣し、食の重要性やバランスのよい食事などについて理解を深め、健全な食生活を実践できるよう、講話等により食育教室を行う。		
②	高齢者事業における食育推進	介護予防事業の中で、フレイル予防や口腔機能の向上に関する講座を行います	○介護予防事業の中で、栄養改善や口腔機能の向上に関する情報の発信を行った。 (口からはじまる健口(こう)教室 6会場各1回 参加者55人) (認知症チェックと予防 会場各7回 参加者延499人) (お口のための講師派遣 50回 参加者数709人) ○フレイル予防啓発イベントの実施 歯科衛生士会や栄養士会などの職能団体と共同開催。お口の健康や食事についての相談対応、情報発信を行った。 (回数:1回、会場:ゆめタウン久留米、参加者数353人)	-	○介護予防事業等の中で、栄養改善や口腔機能の向上に関する情報の発信を行う。 (お口のための講師派遣、認知症検査とトレーニング、口からはじまる健口教室、フレイル予防啓発イベント)	-	長寿支援課 地域保健課

No.	主な事業 (事業名)	取組内容	R6年度事業実績	R6年度 決算額 (千円)	R7年度事業計画	R7年度 予算額 (千円)	担当課
-----	---------------	------	----------	---------------------	----------	---------------------	-----

≪基本施策Ⅲ 食と農への理解を促進する食育≫

●個別施策1 農業体験等を通じた食と農の理解促進

①	農業体験や生産者との交流を通じた食への感謝と農業への理解促進	市内の小学校での学童農園活動を支援し、小学生の農業・農村への理解促進を図るとともに、ふれあい農業公園等での農業体験を通じて、食への感謝の気持ちの醸成を推進します。	○農業団体等が市内の小中学校で実施する学童農園事業を支援し、児童と生産者との交流や農業への理解促進を図った。 (実施校:38校/44校中) ○ふれあい農業公園(農業体験参加者584人)や西部土づくり広場(農業体験参加者180人)等での収穫体験や農業体験などを通して、市民の食に対する気持ちを育んだ。	4,675	○児童が生産者との交流や農業への理解促進を目的として農業団体等が市内小中学校で実施する学童農園事業を支援する。 ○ふれあい農業公園等での収穫作業や農業体験などを通して、食への感謝の気持ちを育む。	5,300	生産流通課 農業の魅力促進課
		農業まつりなどの開催による生産者と消費者の交流や情報発信を行い、市民の食と農への理解を促進します。	○第50回ふるさとくめ農業まつりを11月9日(土)、10日(日)に開催し、生産者と消費者との交流を行い、本市農業・農産物の情報を発信するとともに、食育ギャラリーや地産地消推進店の出店などにより、市民の食と農の理解への理解促進に努めた。(来場者50,000人)	10,779	○第51回ふるさとくめ農業まつりや地域の農業関係イベントの開催を通じて、本市農業・農産物や地産地消の取組を紹介し、食と農への理解促進を図る。	9,779	農業の魅力促進課
②	農業・農村の持つ多面的機能の理解促進	農業まつりや中央図書館等において、農業の魅力や農業・農村の多面的機能を示したパネルを展示し、情報発信を行うことによる理解促進を図ります。	○宮ノ陣クリーンセンター環境交流プラザで農業の多面的機能パネルの常設展示を実施した。 ○農業まつりにて、多面的機能パネルの展示、多面的機能チラシの設置を行った。(R6.11.9~10) ○久留米市立中央図書館の「農業in久留米」の企画展にあわせて、農業の多面的機能に関するパネルを展示した。(R6.5.23~R6.6.26)	—	○宮ノ陣クリーンセンターの見学通路を活用した農業・農村の多面的機能や食育の重要性を示したパネル展示を実施する。 ○農業まつりや中央図書館の農業関連企画展において、農業の魅力や多面的機能のパネル展示やチラシ設置を行う。	—	農業の魅力促進課

●個別施策2 地産地消の推進

①	久留米産農産物を購入しやすい環境整備	久留米産農産物であることを市民や事業者が認識しやすくするため、流通過程における「キラリ久留米」や「くるっば」のロゴマークの貼付を推進します。	○流通過程で事業者や市民が久留米産農産物であることを認識できるように、ロゴマークが入った包装資材やシールを使用し、PRした。 (R6は、資材の在庫状況や製作計画等により、補助金の申請はなし)	0	○久留米産農産物の市民及び事業者への認知度を向上させるため、「キラリ久留米」や「くるっば」のロゴマークを活用した久留米産農産物の包装資材やシール作成に対して支援を行う。	500	農業の魅力促進課
		市内スーパーや小売店等で久留米産農産物の表示を強化するため、効果的なPR資材を作製・配付し、掲示してもらうなど、市民が購入・消費しやすい環境を整備します。	○市内インショップで久留米産農産物の販売ブースの表示を強化するため、店舗に応じたPR資材を作製・配付した。(9店舗) ○地産地消推進店のPRチラシを作成し、広報くめ(8月号)に折り込み、公共施設等で配布(計111,000部)し、市民への周知を図った。 R7.3.31現在208店舗、R6年度新規3店舗	615	○市内スーパーや小売店等で久留米産農産物の販売ブースの表示を強化するため、個々の店舗に応じたPR資材を作製・配付するとともに、久留米産農産物PR動画を放映するモニターを設置する。 ○地産地消推進店を巡るスタンプラリーの実施や、市公式ホームページに掲載している推進店の内容の充実を図ること、市民の購入・消費の促進を図る。	1,125	農業の魅力促進課
②	地産地消の意識啓発	久留米産農産物を使ったメニューを考案し、地産地消動画の配信や料理講習会の実施等による情報発信を行い、伝統食や地産地消への意識向上に繋がります。	○食生活改善推進員協議会と連携し、各地域で久留米産農産物を使った料理講習会を実施した。(20回実施) また、市庁舎1階ロビーで、6月の国の食育月間や野菜の日(8月31日)に合わせて、地産地消動画を放映するとともに、リーフレット等の配付を行った。	619	○食生活改善推進員協議会や地産地消推進登録店と連携し、各地域で久留米産農産物を使った料理講習会を実施するとともに、リーフレット等を活用し、市公式YouTubeに公開している地産地消動画を紹介する。	1,182	農業の魅力促進課
		飲食店や保育所・幼稚園及び医療・福祉施設等に対する久留米産農産物の利用について、情報発信に努めます。	○介護福祉サービス関係団体の会議で久留米産農産物の利用をお願いし、各事業者に向けても個別に案内を行った。 依頼数約200事業所	—	保育所・幼稚園及び医療・福祉施設等への久留米産農産物の利用促進に向けて、PR等に努める。	—	農業の魅力促進課

No.	主な事業 (事業名)	取組内容	R6年度事業実績	R6年度 決算額 (千円)	R7年度事業計画	R7年度 予算額 (千円)	担当課
-----	---------------	------	----------	---------------------	----------	---------------------	-----

《基本施策Ⅳ 環境に配慮した食育》

●個別施策1 食と環境について学び考える機会の拡大

①	環境まなびの まちづくりの推 進	生ごみの堆肥化や野菜づくりを指導する生ごみリサイクルアドバイザーを保育所、幼稚園、学校、地域等に派遣し、体験を通して「食の循環」による食育の推進を図ります。特に地域での生ごみリサイクルアドバイザー派遣事業を拡大し、子どもから大人まで環境に配慮した食生活を送る市民を増やします。	○生ごみリサイクルアドバイザー派遣事業を、小学校、保育園等に事業案内を配布し、生ごみの堆肥化・野菜づくりの体験をする場を提供した。また、生ごみの堆肥化やエコ・クッキングを通して、「命を大切に作る心」「もったいないの心」と「ものを大切に作る心」を育む取り組みを進めた。 派遣回数:19回 参加者数556人 派遣施設:16施設 (保育園10箇所・小学校5箇所・地域2箇所) 生ごみリサイクルに取り組む団体数131件	95	○市内で働く人向けに生ごみリサイクルアドバイザー派遣事業を拡大するため、事業所への周知を工夫して行う。	407	資源循環推進課
		家庭から排出される生ごみの堆肥化を促進するため、地域等で生ごみリサイクルを指導するリーダーを育成します。	○生ごみリサイクルアドバイザーを派遣し、コンポスト容器や段ボールコンポストを用いた生ごみ堆肥化の手法についての学習会を実施した。 講習会開催回数:2回 参加人数:8名	46	○リーダーとしての技術向上のため、生ごみリサイクル講習会や相談会等へ参加を促し、併せてリーダーとして活動できる人材の発掘を図る。	-	資源循環推進課
		新たな日常における暮らし方や働き方の変化に応じ、食品ロスやごみ減量、再利用をテーマとした動画を作成し、情報発信を強化します。	○コンポスト容器を用いた生ごみのリサイクルについての動画を用いて、家庭でできる生ごみたい肥化の手法を広報した。 再生回数:コンポストで堆肥づくり(実践編):3.9万回再生(令和3年度～) 再生回数:コンポストで堆肥づくり(お悩み解決編):8,600回(令和3年度～)	-	○生ごみリサイクルや食品ロスに関する動画の広報を行い、家庭でも実践できる生ごみ堆肥化の手法を学ぶ場の提供を行う。	-	資源循環推進課
		食育講演会、生ごみリサイクル講習会、3R学習会を実施し、食品ロスの抑制など持続可能な社会の実現に向けた食育の推進を図ります。	○久留米ガスにて、「親子de食育「Let's ふりかけパーティー☆多」」や「あまった野菜が大変身!「エコクッキング」講座」として、小学生とその保護者を対象におなかに優しいふりかけづくり、食で健康を整えることについての講習会を行った。 食育講座 実施回数:2回、参加人数:43人 3R学習会 実施回数:15回、参加人数:1,247人	64	○環境学習の拠点として整備された環境交流プラザなどで食育講演会、生ごみリサイクル講習会、3R学習会等を実施し、環境に配慮した食育の推進を図る。	288	資源循環推進課

《共通施策 食育への理解と関心を高める》

●個別施策 市民への情報発信

①	新しい生活様式に対応した 情報発信	市民全体を対象として、食育をテーマとする展示会等を開催し、食育への関心度・認知度向上に努めます。	○食育啓発展示「久留米食育ギャラリー」の開催 「ふるさとくめ農業まつり」との同時開催において、食育推進会議全体でスタンプラリーの実施をすることで多くの集客ができ、より多くの幅広い年代の方への食育啓発を行うことができた。また、市民団体との協働により開催した。 日時:令和6年11月9日(土)、10日(日) 会場:久留米百年公園多目的広場 参加者:50,000人(9日30,000人、10日20,000人)	587	○食育啓発展示の開催 「ふるさとくめ農業まつり」と同時開催により、幅広い年代の多くの人への食育啓発を行うことを目指す。 日時:令和7年11月8日(土)、9日(日)※予定 会場:久留米百年公園	0	農業の魅力促進課
		市公式LINEを使った食育通信の発行や、SNS等を活用した食育移管する事業やイベントの告知を行い、特に若い世代に向けた情報発信の強化を図ります。	○毎月19日の『食育の日』に、関係部局が実施している活動等を「食育通信」としてまとめ市公式LINEで配信するとともに、市ホームページに食育に関するイベントや様々な分野の食育情報を発信した。 ○国の食育月間である6月に、事務局が製作した動画を市役所1階ロビーにて一同に放映するとともに、市公式ホームページに「食育動画の紹介」のページを新たに作成し、部会の垣根を超えた情報発信を行った。 ○メールマガジン等を活用して、職場での食育についての啓発を行った。	—	○毎月19日の「食育の日」に關係部局が実施している活動を「食育通信」としてまとめ、市公式LINEで配信するとともに、市ホームページに食育に関するイベントや様々な分野の食育情報を発信する。 ○国の食育月間である6月に、事務局及び各部会が製作した動画、リーフレット等を市役所1階ロビーにて一同に放映するとともに、市公式ホームページ・LINEに「食育動画の紹介」のページを新たに作成し、部会の垣根を超えた情報発信を行う。 ○商工労働ニュース等を活用して、職場での食育についての啓発を行う。	—	農業の魅力促進課

第4次食育推進プラン 目標指標の進捗状況と基本施策ごとの取組状況（令和4～6年度）

目標指標の進捗状況	1 ページ
基本施策ごとの取組状況	
基本施策Ⅰ 生きる力を育む食育 【子ども食育部会】	5 ページ
基本施策Ⅱ 健康づくりのための食育 【食と健康部会】	8 ページ
基本施策Ⅲ 農業・農産物への理解を促進する食育 【地産地消部会】	10 ページ
基本施策Ⅳ 環境に配慮した食育 【食の循環部会】	12 ページ
共通施策 食育への理解と関心を高める	13 ページ

第4次久留米市食育推進プラン 目標指標の進捗状況

【評価】

- A：実績値が目標値を達成
- B：実績値が基準値より向上したが、目標値を未達成
- C：実績値が基準値より低下

≪目標指標の達成状況≫

基本施策	評価			
	A	B	C	合計
I：生きる力を育む食育	0	2	4	6
II：健康づくりのための食育	1	0	1	2
III：食と農への理解を促進する食育	0	2	0	2
IV：環境に配慮した食育	0	1	0	1
共通：食育への理解と関心を高める	0	1	0	1
合計	1	6	5	12

実績値(R6年度)における目標指標(R7年度)の達成状況は、全12項目中、
 A評価は1項目(全体の8.3%)
 B評価は6項目(全体の50.0%)
 C評価は5項目(全体の41.6%)
 ※基準値：R2年度

基本施策 I 生きる力を育む食育

No.	目標指標	単位	基準 R2年度	目標 R7年度	実績 R6年度	基準年 比較増減	評価	担当課
個別 施策 1	担任と連携した教科等指導を実施した栄養教諭の割合	%	61%	100%	81%	+20%	B	学校教育課
	学校給食残食率の平均値	%	小学校 米 2.5% パン 3.0% 副食 2.7% 中学校 米 1.1% パン 0.8% 副食 0.7% R1年度	小学校 米 2.5% パン 2.5% 副食 2.5% 中学校 米 1.1% パン 0.8% 副食 0.7%	小学校 米 2.6% パン 3.4% 副食 2.8% 中学校 米 1.5% パン 1.8% 副食 1.2%	小学校 米 +0.1% パン +0.4% 副食 +0.1% 中学校 米 +0.4% パン +1.0% 副食 +0.5%	C	学校保健課
	学校給食で導入した久留米産農産物の使用割合(金額)	%	58% H28~R2平均	62%	51.8%	▲6.2%	C	学校保健課

第4次久留米市食育推進プラン 目標指標の進捗状況

【 評価 】
 A : 実績値が目標値を達成
 B : 実績値が基準値より向上したが、目標値を未達成
 C : 実績値が基準値より低下

個別施策2	朝食を欠食する小・中学生の割合	%	小学生 2.1% (全国平均値1.2%) 中学生 2.5% (全国平均値2.2%) R3年度	全国平均値以下	小学生 2.2% (全国平均値1.7%) 中学生 3.4% (全国平均値2.8%)	小学生 +0.1% 中学生 +0.9%	C	学校教育課
	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる3歳児の「1週間当たりの共食」の回数	回	12.6回/週	13回以上/週	12.3回/週	▲0.3回/週	C	こども子育てサポートセンター
	保護者に対して2種類以上の食育啓発を行っている保育所・幼稚園・認定こども園の割合	%	83.3% (80/96園)	100% (96/96園)	98.9% (95/96園)	+15.6%	B	子ども保育課

基本施策Ⅱ 健全な食生活を推進する食育

No.	目標指標	単位	基準 R2年度	目標 R7年度	実績 R6年度	基準年 比較増減	評価	担当課
個別施策1	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	%	50.9% R3年度	60%	43.7%	▲7.2%	C	健康推進課
個別施策2	食を通じた健康づくりをテーマとした動画再生回数(累計)	回	12,788回	+50,000回	102,236回	+89,448回	A	健康推進課

第4次久留米市食育推進プラン 目標指標の進捗状況

【評価】

A：実績値が目標値を達成

B：実績値が基準値より向上したが、目標値を未達成

C：実績値が基準値より低下

基本施策Ⅲ 食と農への理解を促進する食育

No.	目標指標	単位	基準 R2年度	目標 R7年度	実績 R6年度	基準年 比較増減	評価	担当課
個別 施策 1	農業体験や学童農園事業への参加人数	人	12,778人	23,200人	16,432人	+3,654人	B	農業の魅力促進課
個別 施策 2	地産地消を意識している市民の割合	%	54% R3年度	65%	54.2%	+0.2%	B	農業の魅力促進課

基本施策Ⅳ 環境に配慮した食育

No.	目標指標	単位	基準 R2年度	目標 R7年度	実績 R6年度	基準年 比較増減	評価	担当課
個別 施策 1	生ごみリサイクルに取り組む団体数(累計)	件	120件	135件	131件	+11件	B	資源循環推進課

共通施策 食育への理解と関心を高める

No.	目標指標	単位	基準 R3年度	目標 R7年度	実績 R6年度	基準年 比較増減	評価	担当課
個別 施策 1	食育に関心を持つ市民(20歳代、30歳代)の割合	%	83.3% R3年度	90%	87.9%	+4.6%	B	農業の魅力促進課

第4次食育推進プラン 基本施策ごとの取組状況 (R4～R6年度)

達成度:評価基準 A 評価:実績値が目標値を達成 B 評価:実績値が基準値より向上したが、目標値を未達成 C 評価:実績値が基準値より低下	基準値:R2年度 実績値:R6年度 目標値:R7年度
--	----------------------------------

基本施策Ⅰ 生きる力を育む食育

施策目標：子どもが健やかに成長し、生涯にわたって健康に生きる力を育むため、正しい知識と食習慣を身につける食育を推進します。

個別施策	事業実績 (R4年度～R6年度)							成果と課題	
1 学校、保育所等における子どもへの食育の推進	① 食育プログラム研究推進事業における子どもへの食育の推進 ・学校における食に関する教科等の指導や給食指導を実施。 ・令和4年度は「朝ごはん指導のモデル」(第6学年)、令和5年度は「間食指導の食育教材」(第4学年)、令和6年度は「はしの指導」(第1・2学年)というように、「久留米市食育プログラム」を基にした「食育教材」を計画的に作成。 ・栄養教諭が配置されていない中学校における食に関する指導を実施。 ・教職員向けの食に関する情報通信「もぐもぐ通信」を年2回作成・配布。 ・朝ごはんレシピカードや給食レシピカード、ミニ動画を作成。							【成果】小教研と連携して資料の見直し等と並行しながら、毎年新しい食育教材を作成することができ、よりよい指導実践に結び付けることができた。 【成果】朝ごはん摂取率向上に向けた朝ごはんレシピカードに続き、要望の高かった給食レシピカードを作成し、子どもや保護者への啓発を行うことができた。 【課題】「間食指導」の教材の活用率が17%と低い数値となっているため、学級活動の年間指導計画に位置付けるようにするなど、活用の工夫が必要である。	
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
					R4年度	R5年度	R6年度		
	担任と連携した教科等指導を実施した栄養教諭の割合	%	61	100	83	82	81	B	基準値より向上しているものの、R5年度以降低下しているため、次年度はより担任と連携した教科等指導の充実を図る必要がある。
	② 魅力ある学校給食を通じた食育の推進 ・献立年間計画を基に、教科と関連付けた献立を作成。 ・行事食、郷土料理、世界の料理など日々の献立にねらいをもち、給食指導資料を作成し、内容の充実を図った。また、朝ごはん献立を毎月取り入れ朝ごはんの大切さについて啓発を行った。 ・望ましい食習慣や生活習慣を身につけることを目的に、毎月1回、児童配布献立表や給食だより(ランチタイム)で食の情報を発信し啓発を行った。							【成果】献立年間計画に基づいた献立作成を行い、給食指導内容の充実を図るとともに、ICTを活用し、視覚的に分かりやすい工夫を行った。 【課題】児童生徒のうちに、望ましい食習慣や生活習慣を身につけることが大切であるが、食の情報発信となる媒体(児童配布献立表や給食だよりなど)は、一方的な発信となる傾向があるため、内容や方法を工夫する必要がある。	
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	a			達成度 (R6の実績)	評価
					R4年度	R5年度	R6年度		
	学校給食残食率の平均値	%	小学校 米2.5 パン3.0 副食2.7 中学校 米1.1 パン0.8 副食0.7	小学校 米2.5 パン2.5 副食2.5 中学校 米1.1 パン0.8 副食0.7	小学校 米3.0 パン4.3 副食3.4 米3.5 パン3.3 副食2.3	小学校 米3.0 パン4.0 副食3.3 米2.8 パン2.8 副食2.1	小学校 米2.6 パン3.4 副食2.8 中学校 米1.5 パン1.8 副食1.2	C	実績値が基準値を下回った。給食の残食率は、学校にばらつきがあり、残食率が少ない学校が、全体の残食率を下げている現状がある。今後、残食率が低い学校の取り組み方法を共有するなど、残食率の高い学校の改善に取り組む必要がある。

③ 学校給食への久留米産農産物の導入促進 ・久留米産の米を使用した米飯給食の週4回を維持し、毎月2回「地場産給食の日」を実施した。 ・久留米産農産物を使った献立の開発を行い、新規に学校給食に取り入れた。 ・学校給食調理従事者による、久留米産農産物を使用した学校給食コンクールを行った。				【成果】 学校給食に久留米産農産物を導入することで、児童生徒が身近にある農産物を食べる機会ができて、食への関心を高めることが出来た。 【成果】 学校給食コンクール1位の献立を取り入れ、久留米産農産物の利用促進につなげることが出来た。 【課題】 学校給食で使用する野菜や果物には、久留米市で生産されない食材が多い。JAや関係機関と連携し、導入できる野菜の種類について意見交換しながら進めていく。				
④ 保育所、幼稚園、認定こども園等における子どもへの食育の推進 ・各園の食育計画に基づいた食育実践の取組を継続して実施した。 ・施設職員を対象に給食・食育研修会を実施した。 ・各園で実施されている給食について、子どもたちの発育・発達、健康状態、生活状況などに応じて給食の提供が行われるよう、適切な食事計画や献立作成のための情報提供を行った。 ・認可保育所等での3歳以上児への主食提供による、給食の充実を図った。 ・給食の栄養バランスや量を保った給食が実施されるよう、保育所等に対し食材費の支援を行った。				【成果】 給食・食育研修会を継続して行うことで、施設職員の資質向上と各園での食育の取組の充実を図ることができた。 【成果】 認可保育所等での3歳以上児への主食提供や、保育所等の食材費支援を行い、給食の充実及び家庭の負担軽減等につながった。 【課題】 保育所等における食育実践のための効果的な情報提供資料や方法について検討が必要である。				
目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
学校給食で導入した久留米産農産物の使用割合(金額)	%	58	62	R4年度 44.8	R5年度 52.9	R6年度 51.8	C	実績値が基準値を下回った。高温少雨の気候変動による野菜や果物の高騰に加え、他自治体での誤嚥による死亡事故の影響もあり、久留米産農産物の使用に影響がでた。価格の状況を注視し、使用できる久留米産農産物の利用を進める必要がある。

個別施策	事業実績(R4年度～R6年度)						成果と課題	
2 家庭・地域への食育啓発の推進	① 食育プログラム研究推進事業における家庭・地域に対する食育啓発の支援 ・子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上、朝食摂取率の向上を図るため「食に関するアンケート」(久留米市の学校に在籍する栄養教諭を対象に実施)や「生活リズムカード」、「食育推進支援事業」など、学校、家庭及び地域が連携した運動を展開。 ・朝食摂取を促す三者協働の取組等を、リーフレットやチラシ、動画等で発信。 ・毎年11月に実施される「ふるさとくめ農業まつり」で、調理器具に関するクイズ・朝ごはんや学校給食に関する資料提示・フードモデルの提示・レシピ動画のQRコードを掲載したレシピカードを配布。						【成果】 食育の事業に取り組んだ9校は、体験活動を中心に実施することができ、各学校での食育の推進に繋がった。 【成果】 レシピカードは、要望に応じて内容を広げることができた。配布についても、学校(卒業記念品での配布も含む)や農業まつりなど、子どもや教員、保護者、地域の方等広く行き渡るものになった。 【課題】 「食に関するアンケート」の結果によると、久留米市食育教材を活用した間食指導(小4)や朝ごはん指導(小6)の授業の実施は20%程度に留まっており、特に朝ごはん指導については朝食欠食率を下げるためにも、活用頻度を高めていく必要がある。 【課題】 動画や掲示物については、内容が似通ったものになっていたりと、ジャンルが限定的になっていたりと、視点を広げたものとなるように更新し続ける必要がある。	
目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
朝食を欠食する小・中学生の割合	%	小学生2.1 (全国平均値1.2) 中学生2.5 (全国平均値2.2)	全国平均値以下	小学生2.0 (全国平均値1.4) 中学生2.3 (全国平均値2.7)	小学生2.9 (全国平均値1.5) 中学生2.9 (全国平均値2.9)	小学生2.2 (全国平均値1.7) 中学生3.4 (全国平均値2.8)	C	朝食の欠食率については、特に中学生は年々増加する結果となった。小学校はR5に比べるとR6は低下が見られたものの、小中学生ともに全国平均に比べて高い傾向にある。今後、朝食に関する指導や啓発をより活性化させていく必要がある。

② 母子保健事業における食育支援 ・離乳食教室やゆったり子育て相談会にて、離乳食や幼児食の進め方等を指導する中で、適切な食生活の基礎づくりや食育の充実を図った。教室の参加が不可能な方には、電話相談や資料の送付、市ホームページの離乳食動画の案内を実施。 離乳食教室 R4:33回、307人 R5:33回、318人 R6:32回、311人 ゆったり子育て相談会 R4:48回、334人 R5:46回、339人 R6:48回、599人 ・妊婦とその家族が食事の大切さの理解を深め、健やかな妊娠期を過ごすことができるよう、マタニティ食事教室を実施。 マタニティ食事教室 R4:4回、43人 R5:4回、36人 R6:4回、66人								【成果】 マタニティ食事教室では、R5年に比べR6年は父親、その他家族の参加率が上昇した(41%増)。妊婦だけでなくその家族の食に対する関心を伺うことができた。妊娠、出産、子育てと切れ目なく食の支援がつながるように、今後も各種事業の中で取り組みを続ける。 【課題】 R6年度の離乳食教室アンケートでは、父親の朝食摂取の有無について、食べない(19%)が、毎日食べる(55%)に次いで2番目に多い結果となった。こどもの適切な食生活の基礎づくりには、保護者の食生活も影響すると考えられる為、各事業でこどもだけでなく保護者への食育を踏まえた内容の工夫が必要である。
目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
				R4年度	R5年度	R6年度		
朝食または夕食を家族と一緒に食べる3歳児の「1週間あたりの共食」の回数	回	12.6	13以上	12.3	12.1	12.3	C	R6年度の実績は基準値より0.3回減少したが、前年度に比べて0.2回上昇。こどもの食事に比べ、保護者の食事は後回しになりがちである。各種事業を通して、保護者の食事に対する意識や共食の必要性について今後も積極的にアプローチしていく必要がある。
③ 地域子育て支援センター、子育て交流プラザくるん、児童センターにおける食育支援 ・共食など家庭での正しい食習慣の推進を図るために、食育に関する講話や離乳食相談を実施。 支援センター食育講座 R4:4回、45人 R5:3回、45人 R6:2回、35人 児童センター食育講座 R4:2回、19人 R5:2回、31人 R6:2回、52人 子育て交流プラザくるん離乳食相談会 R4:12回、115人 R5:11回、108人 R6:11回、133人								【成果】 正しい食生活の推進が図られ、食に関する保護者の悩みの解消につながった。 【課題】 幼児食の調理実習は、離乳食相談にいられた参加者からの希望も多い為、開催数を増やすなどの工夫が必要である。
④ 多様な暮らしに配慮した子どもへの食育支援 ・基本的な生活習慣の習得にも資する子ども食堂実施団体の普及促進のため、チラシを作成し周知。また、広報久留米や市ホームページを活用し、子ども食堂の取組について市民へ周知をした。 ・物価高騰等の対策として、運営費の補助額を令和4年度に1割、令和5年度には更に1割増やし、子ども食堂の実施団体を財政面で支援。 子ども食堂実施団体数:17団体 延べ実施回数:504回 延べ参加者数:11,828人								【成果】 朝食などを十分に食べることができない、又は一人で食事をせざるを得ない子どもを含め、子どもへの食事の提供や地域との交流を支援することで、食生活の向上と望ましい食習慣の形成された。 【成果】 試行的実施のための補助メニューの新設や補助制度の周知により、子ども食堂実施団体は増加している。 【課題】 子どもたちが徒歩で通うことが出来る範囲で、各校区1つ以上の子ども食堂の設置を目指し、更なる周知が必要である。
⑤ 保育所、幼稚園、認定こども園等における食育支援 ・市ホームページやLINEなど様々なツールを使い、幼児食レシピや正しい食習慣についての情報提供を行った。また、食育イベント等での啓発により、幼児の食に関する情報提供を充実させた。 テーマ:R4.保育所における久留米産農産物レシピ R5.野菜嫌いを克服しよう ベジトレシピ R6.天然だしを味わう 保育所おすすめレシピ								【成果】 市ホームページにて配信している同啓発物を、園に通う全ての世帯へ配布することで、家庭への食育啓発が出来た。園を通して配布するため、園自体の食育推進の意識が向上した。 【課題】 これまでの取り組みにより、保育所等での食育活動は充実しつつある一方で、食への関心が低い家庭への食育啓発及び支援が必要である。
目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
				R4年度	R5年度	R6年度		
保護者に対して2種類以上の食育啓発を行う保育所、幼稚園、認定こども園の割合	%	83.3	100	92.7	96.9	98.9	B	基準値に比べて15.6ポイント増となり、R7年度目標を概ね達成できたと考えられる。園での食育啓発が年々定着し、目標値に近づいているため、さらに支援を進めていく。

基本施策Ⅱ 健康づくりのための食育

施策目標：生涯を通じていきいきと暮らすために、食を通じた健康づくりを実践することができるよう食育を推進します。

個別施策	事業実績 (R4年度～R6年度)				成果と課題				
1 生活習慣病予防・改善のための食育推進	① 健康づくりを支える環境整備 ・くるめ健康づくり応援店事業 市内の食関連事業者を「くるめ健康づくり応援店(以下、「応援店」)」として登録。啓発POPやガイドブック等により「主食・主菜・副菜をそろえること」や「野菜摂取」についての情報提供を充実させ、健康に配慮した食環境の整備を進めた。また、市健康づくりアプリとも連携し、事業周知・啓発促進を図った。 (応援店登録数・応援店アプリアクセス数:164店・16,718(R4)、163店・18,956(R5)、166店・22,346(R6)) (くるめ健康づくり応援店の認知度:12.9%(R4)、13.5%(R5)、14.3%(R6)) ・特定給食施設等への支援・指導 栄養指導員の巡回指導や研修会により、食を通じた健康づくりを促進するための支援、指導を行った。 (給食施設届出数:228施設、R7.3.31時点)				【成果】 市民の望ましい食選択を促すための食環境づくりの取組を応援店等と協働して実施。買い物時や食事中に自然と目に入る機会を通じて普及・啓発を行い、健康無関心層も含めた市民への働きかけができた。また、市健康づくりアプリとも連携したことで、応援店アプリアクセス数や事業認知度も増加した。 【課題】 より多くの食関連事業者と連携した取り組みを進めるため、応援店数の拡大と連携の充実、また、望ましい食行動や健康情報を誰でも気軽に入手できる情報源として、電子媒体等の活用を充実させる必要がある。				
	② 地域における生活習慣病予防のための食育推進 ・食生活改善推進員による地区組織活動 市民を対象に、生活習慣病予防のための講話と調理実習を各地域で行った。「主食・主菜・副菜をそろえること」などをレシピや配布資料に盛り込み、普及啓発を図った。近年は、若い女性の痩せ、高齢者の低栄養など、ライフステージごとの食の課題についても視点を加え、啓発を行った。 (地区組織活動実績 回数・参加者数:17回・250人(R4)、39回・571人(R5)、46回・706人(R6))				【成果】 食生活改善推進員の活動により、地域での生活習慣病予防、食生活改善の普及・啓発に継続して取り組むことができた。コロナ禍で地域活動が制限された時期があり、活動数が大幅に減少していたが、徐々に回数、参加者を増やすことができた。 【課題】 地域とのさらなる連携による活動の活性化が課題である。				
	③ 健診事業・保健事業における食育推進 ・特定健診受診者に配布する「健康管理ブック」で、「主食・主菜・副菜をそろえること」や「野菜摂取」に関する情報提供を行った。 ・特定健診の結果に応じて、各種保健指導を実施。 (特定保健指導実施率:20.2%(R4)、25.5%(R5)、R6実施率は秋ごろ確定)				【成果】 特定健康診査や特定保健指導等の実施により、受診者の健康維持、改善に一定の効果が現れている。 【課題】 受診率の増加、効果的な保健指導の実施について今後も検討していく必要がある。				
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
					R4年度	R5年度	R6年度		
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	%	50.9	60	50.5	41.1	43.7	C	R6年度の結果は43.7%で、基準年より7.2ポイント低くなっている。国の同目標においても割合は横ばいであり、バランスのよい食事を「実践する」ことにつながる取組が必要と考える。

個別施策	事業実績(R4年度～R6年度)						成果と課題	
2 生涯を通じた切れ目ない食育推進	① 若い世代への食育推進 ・YouTube動画等、手軽に情報を入手できるツールを活用して食に関する情報発信を行った。 (動画作成 シリーズ数・本数:5シリーズ・16本(R4)、4シリーズ・14本(R5)、5シリーズ・14本(R6)) ・市内高校、大学、専門学校を対象(計18校)とした食育教室の実施 学校からの依頼を受け、市から講師を派遣し、食の重要性やバランスのよい食事などについて理解を深め、健全な食生活を実践できるよう、講話や調理実習を行った。 (教室 回数・参加者数:5回・130人(R4) / 14回・384人(R5) / 9回・342人(R6)、3ヵ年累計:28回・855人) ・学園祭における食育啓発イベントの実施 食事バランス診断、歯磨き指導、運動ゲームなど体験しながら楽しく参加してもらえる内容で、学生を中心に幅広い世代に食と健康について啓発した。 (イベント実施校:1校、参加者数:90人(R4) / 100人(R5) / 36人(R6)、3ヵ年累計:226人)						【成果】 料理動画は、季節の食材等を使用したメニューを中心に配信。タイミングよく視聴できるよう、配信ごとに市公式LINEのプッシュ通知やくめ健康のびのびポイントアプリのお知らせ機能を活用した。効果的に情報発信を行い、目標の動画再生回数を達成できた。 【成果】 食育教室での講話や調理実習、食育イベントでの啓発、学食や校内での掲示物の設置などにより、食に関する情報提供を行った。教室のアンケート結果では、講話の理解度は高く、自身の食生活を見直すきっかけとなったという意見が多かった。 【課題】 毎年継続実施の学校もある一方で、授業時間の確保の都合等で、その年度毎に実施状況が変わる場合もあった。学校に取り入れやすい様々な手法により、食育推進を図る必要がある。	
	② 高齢者事業における食育推進 ・お口のための講師派遣:オーラルフレイルが進行すると噛めない食品が増えたり、むせを起こしやすくなったりし、低栄養状態や誤嚥性肺炎に繋がるリスクが高まることから、オーラルフレイルを予防するための講話や、ガムを用いた咬合力測定・嚥下体操・パタカラ体操などの実技を実施。 令和4年度:38回 令和5年度:38回 令和6年度:50回						【成果】 受講後アンケートより、オーラルフレイルに対する関心と理解が深まった、口腔体操を行うことで、オーラルフレイルの進行が緩やかになっていることを実感したとの声があり、一定の効果があつた。 【課題】 毎年受講している団体があるため、内容のリニューアルが必要である。	
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)
食を通じた健康づくりをテーマとした動画再生回数(累計)	回	12,788	50,000	R4年度	R5年度	R6年度	A	R6年度の結果は、累計102,236回で、基準年から+89,448回となり、目標を達成した。

基本施策Ⅲ 食と農への理解を促進する食育

施策目標：生産者と消費者との交流や地産地消の推進により、食と農の重要性や持続性を認識し、久留米産農産物の消費を通じた食育を推進します。

個別施策	事業実績(R4年度～R6年度)						成果と課題	
1 農業体験等を通じた食と農の理解促進	<p>① 農業体験や生産者との交流を通じた食への感謝と農業への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業団体等が市内の小学校で実施する田植えや稲刈りなどの学童農園事業を支援するとともに、ふれあい農業公園や土づくり広場で、地域と連携して良質な堆肥を活用した農業体験等の活動を実施。 <p>【学童農園実施 R4:36校→R5:37校→R6:38校】 【ふれあい農業公園での農業体験参加者 R4:732人→R5:539人→R6:584人】 【土づくり広場での農業体験参加者 R4:220人→R5:539人→R6:180人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとくめ農業まつりを開催することで、生産者と消費者の交流を行い、本市の農業・農産物の情報を発信するとともに、食育ギャラリーや地産地消推進店の出店などにより、市民の食と農の理解促進に努めた。 <p>【農業まつり来場者数 R4:45,000人→R5: 48,000人→R6: 50,000人】</p>						<p>【成果】学童農園の実施校が年々増加し、農業団体等が実施する学童農園事業や農業体験等の取組が、農業・農村の理解促進に繋がった。</p> <p>【課題】学童農園事業は、学校近隣での農地の確保が困難であることなどの課題があり、市内全校での実施はできていない。関係機関等と連携して手法を工夫し、実施校や参加者の増加を目指す。</p> <p>【課題】農業まつりは、本市の農業の特長などを市民へ広く発信するだけでなく、農業者と消費者が交流することで、農業・農産物への理解を深める重要なツールであると認識しており、今後も関係団体と連携・協力を図り、食と農の情報発信を行う必要がある。</p>	
	<p>② 農業・農村の持つ多面的機能の理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮ノ陣クリーンセンター環境交流プラザでの多面的機能のパネルの常設設置や、市立中央図書館での農業関連企画コーナーでパネルを展示。 ・ふるさとくめ農業まつりで、農業農村の多面的機能のパネルの展示や、多面的機能を活かした田んぼダムの効果を比較する模型の実演やPR動画を上映。 ・R4及びR5年度は、本市の農業の特長や魅力、農業・農村が持つ多面的機能についてのチラシを作成し、久留米産農産物(梨)の学校配付事業にあわせて、市立小学校(45校)へ配付。 <p>【配付人数:R4:2,937人→R5: 2,843人】</p>						<p>【成果】様々な場での情報発信等により、市民モニターアンケートの調査において多面的機能の認知度が上昇した。</p> <p>【課題】宮ノ陣クリーンセンターや市立中央図書館でのパネル展示の他、今後はデジタルサイネージなど新たなツールを活用し、食と農の情報発信を効果的に行っていく必要がある。</p> <p>【課題】今後も関係団体と連携・協力を図って効果的な手法で取り組む必要がある。</p>	
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)
農業体験や学童農園事業への参加人数	人	12,778	23,200	R4年度 18,663	R5年度 17,655	R6年度 16,432	B	目標は達成しなかったものの、市民モニターアンケートの調査では、多面的機能の認知度は、R3:41.6%→R6:55.3%と上昇している。今後も関係部局と連携し、様々な手法を検討して多面的機能の理解促進に努めていきたい。

個別施策	事業実績(R4年度～R6年度)						成果と課題		
2 地産地消の推進	① 久留米産農産物を購入しやすい環境整備 ・市民や事業者へ久留米産農産物であることを分かりやすくするため、包装資材等への「キラリ*久留米」や「くるっば」のロゴマークの導入を支援。 【ロゴマーク導入:6団体-38品目】 ・久留米産農産物コーナーの表示を強化するため、垂れ幕やのぼり等の資材を設置。また、直売所やインショップに設置したモニターでPR動画「くるめさん、ぐるめさん」を放映。 【PR資材等設置店舗:13店舗(R7.3末)】 ・久留米産農産物の市内消費拡大を図るため、地産地消推進店を募集し、推進店の情報はHPやPRチラシを広報誌に折り込んで市民への周知を図った。また、推進店に、農業まつり等のイベントへの出店案内を行い、PRの場を設けた。 【地産地消推進店:208店舗(R7.3現在)】						【成果】 環境整備を進めることで、久留米産農産物の認知や積極的な購入・消費への意識づけが出来た。 【課題】 ロゴマークの導入支援や、直売所等での久留米産表示強化などを行っているもののロゴマークの認知度は6割台と伸び悩んでいる。今後も市民に久留米産農産物であることの表示の強化に向けて、関係団体と連携・協力を行いながら事業を行う必要がある。 【課題】 地産地消推進店は、近年登録店舗数の減少が続いているため、推進店のPR手法を見直す必要がある。		
	② 地産地消の意識啓発 ・久留米市食生活改善推進員協議会と連携し、久留米産農産物を使ったメニューを作って各校区等での料理講習会を実施。メニューについては、「クックパッド」にも掲載した。 【実施回数:R4:6回→R5:20回→R6:20回】 ・市庁舎1階ロビーで、6月の国の食育月間や野菜の日(8月31日)に合わせて、地産地消動画を放映し、リーフレット等を配付。 ・久留米市中央卸売市場と連携して、令和4年度は保育所、幼稚園及び認定こども園や高齢者施設、障害者福祉施設などの市内事業所に、久留米産農産物を給食などに使っていただけるよう文書による依頼を行った。令和5年度から6年度にかけては、介護福祉サービス関係の団体の会議に出向いて説明し、各事業者へ文書にて案内した。 【依頼数:R4:1,031ヶ所、R6:約200事業所(介護福祉関係)】						【成果】 料理講習会の実施や動画放映で、地産地消の意識向上に繋がった。 【課題】 講習会の参加者は、中高年・女性の比率が高く、第4次プランで特に課題としている若年層の参加者は少ない状況が続いている。今後は、ニーズ等を調査して若年層が参加しやすい事業内容に見直す必要がある。		
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
	地産地消を意識している市民の割合	%	54	65	R4年度 52.1	R5年度 50.6	R6年度 54.2	B	意識する市民割合は、50%台と伸び悩んでいる。男性の意識する割合は年々高まっているものの、全体と比較すると依然として若年層及び男性については意識が低い傾向のため、ターゲットを絞った取組みが必要である。

基本施策Ⅳ 環境に配慮した食育

施策目標：食品ロス削減の取組やごみの減量、再利用に関する普及・啓発を行い、自然環境に配慮した食育を推進します。

個別施策	事業実績(R4年度～R6年度)						成果と課題		
1 食と環境について学び考える機会の拡大	<p>① 環境まなびのまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ堆肥化や野菜づくりを指導する生ごみリサイクルアドバイザーを保育所、幼稚園、小中学校等に派遣し、子どもから大人までが生ごみリサイクルを通して、食と環境について考え学べる場を提供。 【生ごみリサイクルに取り組む団体数 R4:126件→R5:126件→R6:131件】 ・家庭から排出される生ごみの堆肥化を促進することを目的として、地域等で生ごみリサイクルを指導するリーダーを育成するため、講習会等を開催し、リーダーとしての活動できる人材発掘を行った。 生ごみリサイクル講習会【リーダー人材発掘 R4:17名 R5:30名 R6:0名】 【市民向け R4:0回 R5:0回 R6:2回(8人)】 ・新たな日常における暮らし方や働き方の変化に応じ、再利用をテーマとした動画として、コンポスト容器を用いた生ごみのリサイクルについての動画を用いて、家庭でできる生ごみ堆肥化の手法を広報。 【再生回数:コンポストで堆肥づくり(実践編):3.9万回再生(令和3年度～)】 再生回数:コンポストで堆肥づくり(お悩み解決編):8,600回(令和3年度～)】 ・生ごみリサイクルの手法を学ぶ生ごみリサイクル講習会やごみ減量・再利用について学ぶ3R学習会、野菜の皮等を使ったスープやミネラルたっぷりのふりかけづくり講座等を実施。 【3R学習会 R4:13回(701人) R5:10回(750人) R6:15回(1247人)】 【食育講座 R4:1回(10人) R5:1回(16人) R6:2回(43人)】 						<p>【成果】リーダーの育成や学習会、食育講座などの開催で、ごみの減量や食品ロスの抑制などの啓発を行うとともに、家庭における食育の推進への取組に繋がった。</p> <p>【課題】生ごみリサイクルアドバイザー派遣事業では、児童や地域住民が自然の中に命を感じ、食べ物や環境について考える機会となり生ごみリサイクルに取り組む団体数も増加した。</p> <p>【課題】実施ができない要因の1つとして、生ごみリサイクルを実践できる畑がないことが挙げられるため、今後はプランターや段ボールの活用を検討する。</p> <p>【課題】「地域」で、本事業が活発に実施されることで、生ごみ減量と家庭における食育の推進を図ることができる。今後も、派遣する施設や団体を増やすことで、より多くの方々に食と環境について考え学ぶ機会を提供し、自然環境に配慮した食生活の実践へと繋げていくことが必要である。</p>		
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
	生ごみリサイクルに取り組む団体数 (累計)	件	120	135	R4年度 126	R5年度 126	R6年度 131	B	目標値にはわずかに到達していないが、全小学校や保育園等への事業周知を行ったことで、年々順調に増えている。

共通施策 食育への理解と関心を高める

施策目標：市民全体を対象に、イベントの開催やSNSなど新しいツールを活用した情報発信を行い、食育への理解と関心を高めます。

個別施策	事業実績(R4年度～R6年度)							成果と課題	
1 市民への情報発信	① 新しい生活様式に対応した情報発信 ・「ふるさとくめ農業まつり」との同時開催で、食育に関する取組み「食育ギャラリー」を開催。食育推進会議の各部会や、関係団体・機関が、食育に関するクイズやパズルの他、動画配信やパネル等の展示、久留米産農産物を使ったレシピ等の配布を各ブースで行うなど、様々な工夫を凝らし、多方面から食育へのアプローチを実施。また、食育推進会議全体でのスランブラリーも実施した。 【来場者数：R4:45,000人→R5:48,000人→R6:50,000人】 ・毎月19日を「食育の日」とし、「食育通信」を市公式ラインの他、市職員・小中学校・地域コミュニティセンター、事業者向けにメールマガジンを配信。また、市ホームページに食育に関する情報を掲載。 ・国の食育月間である6月に、事務局が製作した食育動画を市役所1階ロビーにて一同に放映。市公式ホームページには「食育動画の紹介」のページを作成。							【成果】「食育ギャラリー」を「ふるさと久留米農業まつり」と同時開催することにより、老若男女問わず幅広い年代の人々が毎年5万人程度来場するようになり、幅広い世代に食育の情報発信が出来た。 【成果】食育動画の放映では、部会の垣根を超えた情報発信を行うことが出来た。 【課題】食育通信の内容を充実させ、さらなる食育の啓発が必要である。	
	目標指標	単位	基準値 (R2年度)	目標値 (R7年度)	実績値			達成度 (R6の実績)	評価
					R4年度	R5年度	R6年度		
食育に関心を持つ市民(20歳代、30歳代)の割合(市政アンケートモニター調査)	%	83.3	90	89.9	92.1	87.9	B	基準値から4.6ポイント上昇しており、食育ギャラリーなどの食育関連イベントの開催に加え、各部会が長年取り組んできた活動の成果が出つつあると考えられる。今後さらに、年代や性別等ターゲットを絞った効果的な取組を行っていく必要がある。	